

# 島根大学地球科学研究報告

第37号  
2020年3月

## 論文

- 烏ヶ山溶岩ドームおよびそれに関連する火砕流堆積物の岩石学的・鉱物化学的研究  
.....伊藤 豊・Andreas Auer 1~10
- 榭水原火砕流堆積物における岩石学および地球化学的研究  
.....西田 華菜・Andreas Auer 11~19
- 大田市仁摩町琴ヶ浜の海浜砂に含まれる有孔虫群集  
.....林 広樹・宮田 裕輔・瀬戸 浩二 21~32

島根大学大学院総合理工学研究科地球科学教室

# 島根大学地球科学研究報告 Earth Science Reports of Shimane University

## 編集規約

1. 本研究報告は本学総合理工学研究科地球科学教室において、年1回発行する。
2. 本研究報告には、教室構成員（地球科学教室の学生を含む）、教室卒業生および特に編集委員会が認めた者は投稿することができる。ただし、学生については、教室教員1名以上の推薦を必要とする。
3. 編集委員は地球科学教室教員から4名を選出する。その任期は原則として2年とし、1年ごとに半数を改選する（2001.12.一部改正）。
4. 本研究報告の内容は、論説（article）、研究短報文（short note）、資料・解説（review）など、広い意味の地質学に関連するものとし、資料・解説では学説などのほかに、鉱物・岩石・化石・地誌などを紹介・解説したものとする。
5. 執筆者は次項の投稿要領に従うものとする。
6. 投稿原稿の掲載の可否については、編集委員会が審査し、決定する。
7. 別刷は50部を教室経費から負担する。カラー印刷費は個人負担とする。
8. 掲載論文等について、すべて島根大学がデータベースとして構築し、インターネットを介して学外に公表する（2006.12.20改正）。

## 投稿要領

1. 和文原稿の刷り上がり1ページは、2,754字（A4版、9ポ、2段組）として編集するので、できるだけ所定の原稿用紙（25字×23行、4枚で1ページ）を使用する（2000.12.改正）。
2. 原稿（論説、研究短報文、資料・解説）には、表題の英訳と著者名のローマ字書きを添える。
3. 本文の章-節-項-目に相当する見出し行間などは次の例に従う。  
（章）見出しをつけず2行分をとる。位置は中央。  
（節）1, 2……とし、1行分をとる。位置は左端。  
（項）(1), (2)……とし、行をかえず書き出し1字あける。  
（目）a, b……とし、行をかえず、左端。
4. 原稿は口語体・現代かなづかいを用い、なるべく常用漢字を使用する。
5. 数字・アルファベット（小文字）は1マス2字、mm, %, (,), :などは1字分とする。
6. 字体指定は次の要領に従い、著者が行う。  
イタリック体（生物化石学名、など）：赤で1本の下線  
小キャピタル体（ローマ字人名など）：赤で2本の下線  
ゴシック体：赤で波形下線
7. 和文原稿には英文アブストラクトを添付する。アブストラクトはダブルスペースでタイプライントする。
8. 英文アブストラクトの下にキーワードをつける。原則として英語とし、3語以上、10語以下とする。
9. 図・表・写真は縮尺を○○cm×○○cmと指定する。また、図・表の大きさは原則として刷り上がり最大1ページ大（版面のサイズは17.4cm×24.2cm）とする。
10. 図・表の説明文は別の原稿用紙に書き、また、図・表・写真の挿入位置を本文原稿用紙の右側欄外に赤字で指定する。
11. 引用文献は本文末に一括して著者名のアルファベット順、同一著者のものは年代順に配列し、書式は地質学雑誌のそれにならうようにする。
12. 欧文原稿は原則として論説・研究短報文に限るものとし、原稿は著者の責任において完全を期する。キーワードについては8の規定に従う。
13. 欧文原稿は厚手白紙のタイプ用紙を用い、ダブルスペースでタイプライントする。
14. 欧文原稿の場合は末尾に400字以内の和文要約を必ず添える。これらの事項のほかは、和文原稿の要領に従うこととする。

編集委員会

増本 清・酒井哲弥・亀井淳志・Andreas Auer

**Editorial Committee**

Kiyoshi Masumoto, Tetsuya Sakai, Atsushi Kamei and Andreas Auer

令和2年3月19日印刷

令和2年3月25日発行

編集・  
発行者

島根大学大学院総合理工学研究科地球科学教室

〒690-8504 松江市西川津町 1,060

TEL 0852-32-6100 (代表)

FAX 0852-32-6469

印刷所 有限会社 高浜印刷

〒690-0133 松江市東長江町 902-57

TEL 0852-36-9100

# EARTH SCIENCE REPORTS OF SHIMANE UNIVERSITY

No.37 March, 2020

## Articles

- Petrology and mineral chemistry of the Karasugasen lava dome and associated pyroclastic flow deposits  
..... Yutaka Ito, Andreas Auer 1~10
- Petrology and geochemistry of pyroclastic rocks from the Masumizuhara pyroclastic flow deposit  
..... Haruna Nishita, Andreas Auer 11~19
- Foraminiferal assemblages from the beach sand of Kotogahama beach, Nimacho, Oda City, Shimane Prefecture  
..... Hiroki Hayashi, Yusuke Miyata and Koji Seto 21~32

**Department of Earth Science**

Graduate School of Science and Engineering

Shimane University

Matsue 690-8504, Japan